

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、本日（9日）15時31分に爆発的噴火¹⁾が発生し、火砕流が火口から東側へ約1km流下したのを確認しました。噴煙の高さは火口縁上4000m以上で南西へ流れました。噴煙の高さが4000mを超えたのは、2006年6月に昭和火口で噴火が再開して以来初めてです。また、弾道を描いて飛散する大きな噴石が4合目（昭和火口より800～1300m）まで達しました。

昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲では、大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

○活動概況

・噴煙活動の状況（図1、図2）

昭和火口では、本日（9日）15時31分に爆発的噴火¹⁾が発生し、火砕流が火口から東側へ約1km流下したのを確認しました。噴煙の高さは火口縁上4000m以上で南西へ流れました。噴煙の高さが4000mを超えたのは、2006年6月に昭和火口で噴火が再開して以来初めてです。また、大きな噴石が4合目（昭和火口より800～1300m）まで達しました。



図1 桜島 4月9日15時31分の爆発的噴火（鹿児島地方气象台より撮影）

・噴煙の高さは火口縁上4000m以上で南西へ流れました。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ
(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ
(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) で閲覧することができます。

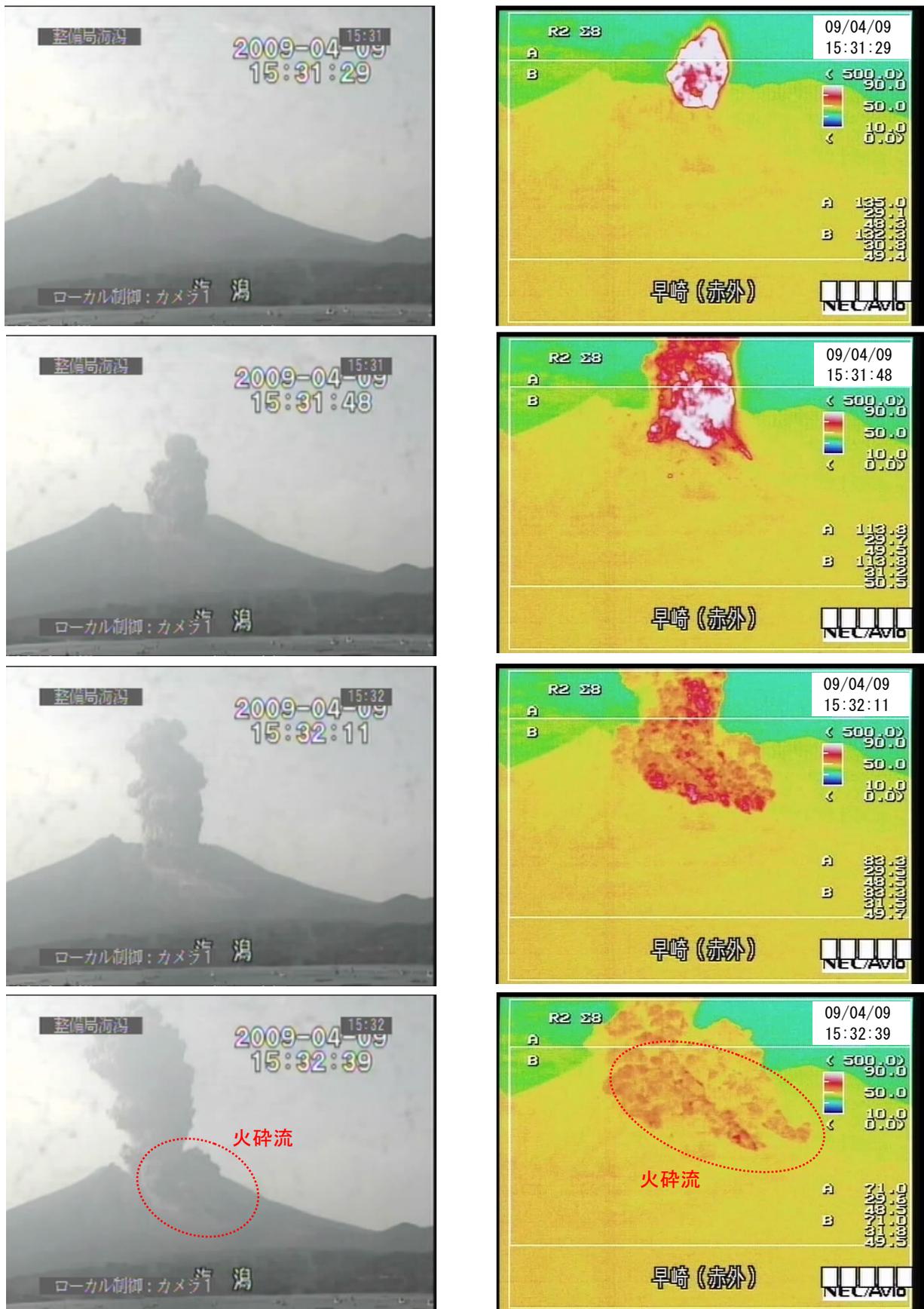


図2 桜島 4月9日15時31分の爆発的噴火(左:海湯カメラの可視画像、右:早崎カメラの熱画像)

・火砕流が火口から東側へ約1km 流下したのを確認しました。

*九州地方整備局大隅河川国道事務所設置の監視カメラ(海湯カメラ:昭和火口から南南東約6km、早崎カメラ:昭和火口から南東約5km)による